【学生フォーラム】

韓国社会福祉研修から学んだこと

岡崎女子短期大学人間福祉学科朝倉由比、安藤夢樹、篠崎亜規、鈴木なつみ

本報告は、2007年夏休み期間中(8月1-3日)に実施した韓国研修で学んだことをまとめたものである。

1.研修の目的

私たちは介護福祉士を目指して福祉の知識や技術を学んでいる学生として、日本のみならず、外国の福祉についても興味を持っていました。今回、韓国の福祉施設を見学し、日本の施設と比較すると同時に、韓国の社会福祉について学ぶことを目的とした研修に参加しました。また、私たちにとっては異文化である韓国の食生活や歴史、伝統文化にふれること、そして、韓国の学生や地元の高齢者とのふれあいをとおして、韓国の人々や文化について理解したいと思い、韓国を訪問しました。

2. 研究内容

(1)研修地域の紹介

今回訪問した安東市は韓国の南東部の地方中小都市で、約17万人の人が住んでいます。教育文化都市であり、ユネスコ指定世界歴史都市です。また韓国の精神文化の首都であり儒教の本山とも呼ばれています。自然豊かな文化都市でエリザベス女王が訪れた場所でもあります。



(2)研修日程

研修1日目は、まず安東市に移動し、カトリック上智大学を訪問しました。大学の先生と福祉を専攻している学生たちと対面し、校内を見学しました。大学付属の幼稚園や老人デイサービスセンターにも案内していただきました。その後韓国の先生と学生とともに、伝統文化を体験できる施設に行き、チマヂョゴリを着て礼儀作法を習いました。その後、カトリック上智大学側が用意された歓迎夕食会に招かれ、韓国の伝統料理である韓定食を頂きました。一緒に食事をし、お土産交換や歌を歌ったりして、交流をはかりました。

2日目は安東河回村に行き、昔の人々の住居や文化財を見学しました。その後、愛明 福祉村に行き、韓国の福祉について勉強しました。そして地元の交通機関を利用し、釜山 に移動して釜山市内を見学し、日本語専攻の学生と交流しました。3日目に帰国の路につ

きました。

(3)研修内容

a) 文化体験

食生活では、日本と大きな差を感じました。1日3食すべてにキムチがついてくるのです。また香辛料が多く使われており、とても辛かったです。また韓定食というお祝いの席で食べる食事がありました。

伝統文化では、現在はお正月や結婚式など特別な時に着るチマヂョゴリを着て、韓国伝統のお辞儀をする体験をしました。チマヂョゴリは日本の着物のように、昔は普段着として着ていたこうです。また、オンドル部屋というものをはじめてみました。オンドル部屋とは日本でいうと和室のような部屋ですが、冬になると部屋が温かくなり、防寒に優れた仕組みになっているということがわかりました。



b) 学生との交流

韓国で福祉を学んでいる学生との交流では、お互いに相手の日本語、韓国語が全くわからず困る事がしばしばありました。しかし伝えようとする気持ちと、聞き取ろうという気持ち、そしてジェスチャーや簡単な英語の単語を使いコミュニケーションを図りました。

c) 福祉施設の見学

安東エミョン福祉村では、村の中にある障害者施設で施設内結婚をする事ができます。 韓国の施設内結婚は日本に比べ施設側がとても協力的であると感じました。施設内で結婚 式を行うことができます。また夫婦のための住居もあり、そこで暮らしている夫婦はとて も幸せそうでした。

障害者の施設内住居はグループホーム形式になっており、少人数で暮らしています。二階建てで、二人一部屋ほどです。建物内はとてもきれいで清潔感にあふれていました。テレビなどの電化製品も充実しており、一般の住居とかわりはありません。また、何か緊急事態が起きたときにすぐ行き来できるよう、1階と2階は螺旋(らせん)階段でつながっていました。その螺旋階段で同じ住居内で暮らしている人同士が毎日顔を合わすこともでき、交流を大切にしていることがわかりました。

住居の他に、職業・機能訓練をする建物もありました。職業訓練では陶芸やトイレットペーパーを作ってそれを販売しています。施設内にあるパソコン教室も職業訓練のための一つです。また、機能訓練では、ラケットと手をテーピングで固定し卓球を楽しんでいました。打つ玉はとても早く健常者に劣らないくらいでした。大会にも出場しているそうです。

高齢者施設の建物は広々とした清潔感があるのが特徴的でありました。窓は大きく光が差し込んでおり、電気をつけなくても明るく開放感がありました。中庭には花が沢山咲いていて芝生も整えられていて、とても綺麗でありました。施設内は窓を閉め切っているの

にもかかわらず、独特の施設臭はなく無臭でした。また、椅子が少なく高齢者の方は床に座りながら暖かい笑顔で出迎えていただきました。中には昔名古屋に住んでいて、日本語が上手に話せる方もいました。私達はそこで日本の折り紙で織った、鶴や箸入れをプレゼントしました。エミョン福祉村では、障害者施設と高齢者施設が同じ敷地内にあるので季節の行事などで定期的に交流を図っています。

最後に施設長からお話をしていただき、そこで韓国では来年の7月から日本をモデルと した保険制度が導入されることを知ることが出来ました。

3. まとめ

韓国研修で学んだことは、社会福祉施設の理念と環境が充実しているということです。 障害者施設では、健常者と同じように恋愛し、結婚し、一緒に暮らすというノーマライゼーションの福祉が感じられました。高齢者施設では、施設臭がなく、清潔で自然に触れられる環境が整っていました。また日本の介護保険制度をモデルとした保険制度の導入が行われ、2008年7月から「老人スバル保険」がスタートします。スバルとは日本語でケアという意味です。

韓国の学生との交流ではノンバーバルコミュニケーションの大切さを実感しました。コミュニケーションの基本は相手に伝えたいという気持ちだと思いました。しかし、韓国語や英語などの語学力を身につけることも大事だと感じました。

訪問先の学生や高齢者はとても暖かく迎え入れてくださり、人情味が感じられました。 また、あいさつ、礼儀作法を重んじているところが日本と似ていました。





4. 今後について

私たちが訪問したカトリック上智大学の教員や生徒を岡崎に招き、歴史文化財や社会福祉施設などを見学し、日本の伝統文化と社会福祉について知ってもらいたいと思います。 また、これからも韓国を訪問し、日韓の交流を図り続けていきたいと考えています。

